名前 田中早苗

専門分野 言語聴覚士・当事者活動支援・情報提供は就労について

会議での役割 情報提供研究者

A班の提言へのコメント・意見

ASDの人にも様々な人がおり、従って困っていること、支援が必要な事柄も様々である。また本人自身の理解、家族の理解もまちまちであることが多い。周囲が十分考えて良かれと思ってしていることが、本人にとっては苦痛であったり、思いもかけないものが本当に有用な支援となったりもする。

ASDの人にとってもASDでない人にとっても互いにつきあう際にはちょっとしたコツあるいは慣れのようなものが必要ではないだろうか。

また、ASDかどうかもわからない「身近な人」との付き合い方を考えるときにも、“ASDの人との付き合い方”を学ぶことは、相手を理解する一つの有効な手段となり得ると考える。

B班の提言へのコメント・意見

ご提案のあった「専門分野を超えた全体での話し合い」は、例えば学齢期のASDの人と関わる人たちと青年期のASDの人と関わる人たちの間で意見が交わされるということであり、年代を超えた長期的な視点に立った支援の検討ができると考える。

また、一緒に何かを行ったり一緒に仕事を進めたりする際に“自分とは違う”ということを受け入れることは誰にとっても簡単なことではない。

その間をつなぐ人、また互いの悩みを出し合える場なども必要であると考える。

C班の提言へのコメント・意見

「企業側と当事者側の互いの情報提供の場」の重要性に関連して、現在発達障害の人を雇っている企業から、そうではない企業への情報提供も、的確な就労支援を広める方法のひとつであろうと考える。

それに加え感じることは、就業訓練の場との連携の大切さである。多様な発達障害の人の就労支援はまだ確立されていない部分が多く、今後、各種訓練校や特別支援学校と企業や専門家とが連携して発達障害の人に適切な支援についてさらに検討し実践していくべきであると考える。

D班の提言へのコメント・意見

「居場所をみつけるための就労支援」ということは、まずは「納税者」という社会的立場としての居場所、ということ、さらに「生きる意味を見つけるために」との副題がついているので、自分探しを含めたものということになるのだろう。

ASDの人の当事者グループでは、仲間同士認め合ったり、将来の目標となる先輩との出会いがあったりしながら、それぞれが自己理解を深め、また互いを受け入れていっている。

自分に合う仕事を探す際に、自らの特性を意識したり、自分が必要としているサポートが何かを把握していくときにも、仲間の存在や支えは大きいと考える。

E班の提言へのコメント・意見

「ASDの人とASDではない人とが話し合う機会を持つ」ことや、「各層の会話を深める」に関して、コミュニケーションにズレが生じやすいということを認識し、その都度対話する相手のコミュニケーションの特徴を理解していくことが必要だと思う。

そのために、話し合う両者が様々な場面で関わることや専門的なアドバイスがあることが望まれる。

F班の提言へのコメント・意見

コミュニケーション偏重社会、ということ以外にも、多くの職種のかけもちや持ち回りなど、マルチ型の能力が求められている事も現在の就職難の要因のひとつとなっている。

当事者の特性に合った分業が成立するような部門についての実証研究も是非にと感じた。